

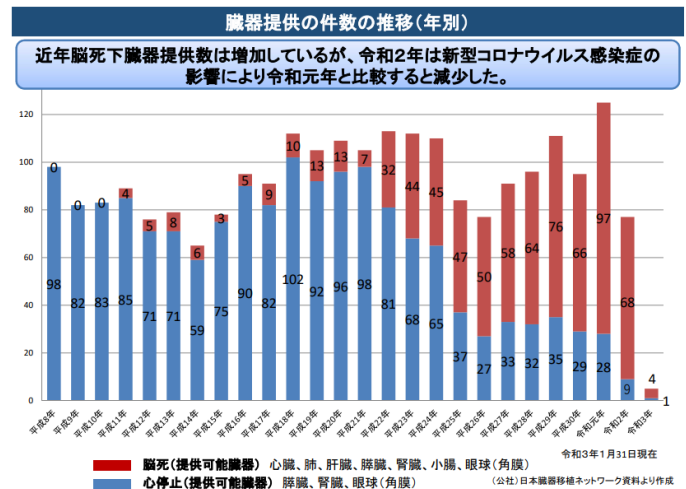
2021年度「全腎協ニューズレター」第3号
全腎協事務局作成 (2021. 8. 19)

■ 新型コロナの影響により 2020 年度臓器提供件数大幅減

厚生労働省の「厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会」において、2020（令和2）年における臓器提供件数が新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少していることが明らかになりました。

2019年度における脳死による臓器提供数は97例、心停止後は28例だったのに対し、2020年度の脳死臓器提供数は68例、心停止後は9例でした。とりわけ心停止による臓器提供件数は、2010年に臓器移植法が改正されて以降、減少傾向が続いていますが、新型コロナウイルス感染が拡大した2020年度は、前年比1/3にまで減少しました。

なお同委員会は、本年2月より月1回のペースで開催され、これまでの議論の中では「臓器提供の総数を増やすために解決すべき課題を十分に検討し、現行法下において運用で対応できることと、法改正が必要なことに整理して議論することが必要」「臓器提供における知的障害者等の意思表示の取扱いについて、小児の意思表示の取扱いとの整合性にも留意しつつ、今後見直しを検討すべき」といった意見が出されています。



(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000743946.pdf> より抜粋)

■ 「臓器を提供された方のご家族に対する調査」の結果公表
日本臓器移植ネットワーク実施

日本臓器移植ネットワーク（JOT）は今年、2010年に改正された臓器移植法が施行されて以降、家族の承諾があれば可能になった脳死下による「臓器を提供された方のご家族に対する調査」を実施し、その報告書を公開しました。

本人の意思が分からない中で提供を決めた家族がおよそ半数に上るなか、家族はどのような思いで脳死からの臓器提供を決断し、そしていま、どのように感じているのか。その一部を右へ抜粋します。

全容はこちら (https://www.jotnw.or.jp/files/news1/2021/20210407news1_assen_kekka.pdf) をご参照ください。

■ 2022 年度診療報酬改定に向け本格議論を開始

中医協総会は7月7日、2022年度診療報酬改定に向け、本格的な議論を開始しました。9月までに各検討項目を一巡させる第1ラウンドの議論を行い、秋に意見の整理をまとめます。それ以降は、個別項目の具体的な評価を検討し（第2ラウンド）、その後は例年同様、来年1～3月に改定内容の諮問・答申を行い、2022年度改定が決定される予定です。

▼問「ご本人またはお子様」との別れについていまどのように感じていますか。

10年経過しましたので、もう大丈夫です/あの時から、時間が止まってしまっています/常に申し訳ない思いにとらわれている。これは何年たっても変わらないと思う/どこかで生きているという安心感がある。

▼問「移植後経過報告（JOTが家族の希望に応じ移植を受けた方の経過を定期的に報告）」を受けるとした場合、どのような内容を知りたいですか。

（移植を）受けた方が治ったら何をしたい等の夢や希望が叶ったかどうか/元気で過ごせたら、希望はありません/複雑です。知りたい気持ちと怖い気持ちが揺らいでいます。